

「西塩子の回り舞台」裏方ばなし～ボランティアも始動！～

4月7日、西塩子田園都市センターで、地区全世帯が会員となっている「西塩子の回り舞台保存会」の総会が行われました。NHKの報道関係者や、今回の保存会の活動の様子をドキュメンタリーにしたいという映像制作者も同席する中、保存会事務局から本年の舞台組み立てと10月の催事について案が提出され、出席者全員が賛成しました。5年ぶりの地芝居公演に向けて、本格的な活動のスタートです。

保存会の役割分担

保存会は、会長のもと、総務班・舞台班・西若座の3つに分かれて活動しています。

総務班は、会計、物品購入、協賛金の募集、駐車場、のぼり旗・会場案内設置、警備、出店、ボランティア対応、受付、会場美化、広報等を担当します。

舞台班は、舞台組み立てに必要な用材（竹や縄・こも菰など）・用具・重機の手配及び組み立て作業、音響・照明など電気機器の関係業者との交渉、出演団体との打ち合わせ等を行います。

そして、西若座は、役者だけではなく、大道具・小道具制作、舞台転換、衣裳の管理・着付け、化粧、黒子まで分担します。

西塩子の戸数は60余り。しかも、高齢化の進行により、実際に活動できる人は50人ほど。この人数で、本業の合間にこれらの活動をこなすのは至難の業です。

そこでボランティアの登場

地域で維持してきた舞台を、これからも自分たちの手で継承することに、こだわりのないわけではありません。しかし、保存会員が今より16歳若かった平成9年、半世紀ぶりに西塩子の回り舞台が復活した時から、西塩子のみで舞台を維持し活動していくことの難しさは予想されました。そこで、2回目の組み立てとなる平成10年に舞台組み立てのボランティア参加を呼びかけましたが、反応はいまひとつ。ご協力くださった方はほとんどいませんでした。

それでも、手伝ってもらおう分野を増やし、あきらめず催事の度に呼びかけているうち、徐々に支援の輪は広がりを見せ始めます。平成18年には、

舞台組み立てのほか、役者、衣裳作りや着付け、情報発信など、学生を含む70人を超える方々がボランティアとして協力。その動きは、前回の平成20年そして今年へとつながり、今回は先輩ボランティア有志が主体となって、ボランティアの募集と取りまとめ役を買って出てくれました。

ボランティア向け説明会を実施

6月11日、舞台組み立て会場となる大宮公民館塩田分館には、ボランティア有志の呼びかけに応じて、今回からお手伝いを表明してくださっている、市まちづくりネットワーク会員や国際交流協会代表、文化デザイナー学院生、茨大生など40人を超える人々が続々と集まりました。

保存会の担当班ごとに、400本もの竹の切り出しから始まる舞台組み立てや、ポスター・販売グッズのデザイン、組み立て参加者の昼食賄いと見学者のおもてなし、公演当日の受付・案内、舞台の大道具転換など、お手伝いの内容について説明があり、参加者からは活発に質問や提案が寄せられました。



▲舞台組み立てに参加する茨大生のボランティア
(平成18年)

催事情報

- 8月25日 舞台組み立て作業開始
10月5日 プレイイベント「舞台開き―地域の人々と一緒に舞台を楽しもう！―」※企画／茨大生
10月12または13日 ※企画中
10月19日 「東日本震災復興祈念 地芝居公演」※福島県内の2団体特別出演
10月26日 県教育委員会主催「茨城県郷土民俗芸能の集い」13:00～16:00
◆他に、8月3・4日9:00～16:00、旧塩田小体育館で、プロによる「舞台背景制作体験講座」を実施します。

見学自由。

歴史民俗資料館大宮館 ☎52-1450 FAX 52-5233 ※月曜日・祝日休館

西塩子の回り舞台保存会公式ホームページ <http://mawari-butai.jp.org/>